

Title	19世紀アメリカ女性文学史におけるシンパシーとシスターフッド
Sub Title	Sympathy and sisterhood in 19th-century American women literature
Author	大串, 尚代(Ogushi, Hisayo)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2024
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2023.)
JaLC DOI	
Abstract	本年度は、アメリカ女性文学におけるドメスティシティ（家庭性）とシンパシーとの関係について中心に研究を進めた。具体的には、19世紀に出版されたキャサリン・マリア・セジウィックの『ニューイングランド物語』（1822年）と、20世紀の作品であるマリリン・ロビンソンの『ハウスキーピング』（1980年）に関する研究に結実し、それぞれ研究発表を行った。アメリカにおける公私領域論がアレクシス・ド・トクヴィルの著作によって19世紀初頭に表された際、トクヴィルは女性の領域、すなわち「私」のことを「静かな家事の世界」「狭い枠」と表現している。ここでは動的な公の領域と静的な私の領域が分割され比較されており、そうした考え方は長く続いてきたと思われるが、しかしながらドメスティックな場を、社会から切り離された静かな場であると、それほどまでに当然に見なすことができるのだろうか。本年度に申請者が行った研究では、家庭を描いてきた「家庭小説」が、いかに家庭を維持することが難しいのかを描いてきたかを明らかにした。その際、家庭におけるシンパシーが果たす役割についての議論をおこなった。セジウィックの『ニューイングランド物語』は、アメリカ文学史において家庭小説と呼ばれるジャンルの最初期の作品と言われているが、本作品では家庭は「嵐が吹き荒れる場」として表現されており、血縁によってのみ結ばれている家族のメンバーに共感が欠如していることが示される。公私の領域論をたくみに避けるようにして、本作では家族や家庭のあり方をむしろ外に広げ、血縁とは異なる「家族」が描かれていることを考察した。 ロビンソンの小説『ハウスキーピング』は、「家事」と「家を維持すること」のふたつの意味がタイトルに込められており、「家」を維持することと、家庭を持つ（家族で暮らす）ことが区別されている。ここから、20世紀後半におけるアメリカの「家族」と共感の問題を考察した。 This year, I focused on researching the relationship between domesticity and sympathy in American women's literature. Specifically, my research tackled with studies on Catherine Maria Sedgwick's <i>New England Tale</i> (1822), published in the 19th century, and Marilynne Robinson's <i>Housekeeping</i> (1980), a 20th-century work, on both of which I delivered presentations at literary conferences. When the discourse on public and private spheres in America was articulated by Alexis de Tocqueville's writings in the early 19th century, Tocqueville described the realm of women, or the "private," as the "the quiet circle of domestic employments," a "narrow circle." While this dichotomy between the dynamic public sphere and the static private sphere has persisted, can we truly consider the domestic realm as a quiet space isolated from society? In the research conducted this year, I aimed to reveal how "domestic novels" depicting family life have portrayed the challenges of maintaining a household, engaging in discussions about the role of sympathy within the family.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2023000010-20230028

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2023年度 学事振興資金（個人研究）研究成果実績報告書

研究代表者	所属	文学部	職名	教授	補助額	200千円 (B)
	氏名	大串 尚代	氏名(英語)	OGUSHI Hisayo		
研究課題(日本語)						
19世紀アメリカ女性文学史におけるシンパシーとシスターフッド						
研究課題(英訳)						
Sympathy and Sisterhood in 19th-Century American Women Literature						
1. 研究成果実績の概要						
本年度は、アメリカ女性文学におけるドメスティシティ(家庭性)とシンパシーとの関係について中心に研究を進めた。具体的には、19世紀に出版されたキャサリン・マリア・セジウィックの『ニューイングランド物語』(1822年)と、20世紀の作品であるマリリン・ロビンソンの『ハウスキーピング』(1980年)に関する研究に結実し、それぞれ研究発表を行った。アメリカにおける公私領域論がアレクシス・ド・トクヴィルの著作によって19世紀初頭に表された際、トクヴィルは女性の領域、すなわち「私」のことを「静かな家事の世界」「狭い枠」と表現している。ここでは動的な公の領域と静的な私の領域が分割され比較されており、そうした考え方は長く続いてきたと思われるが、しかしながらドメスティックな場を、社会から切り離された静かな場であると、それほどまでに当然に見なすことができるのだろうか。本年度に申請者が行った研究では、家庭を描いてきた「家庭小説」が、いかに家庭を維持することが難しいのかを描いてきたかを明らかにした。その際、家庭におけるシンパシーが果たす役割についての議論をおこなった。 セジウィックの『ニューイングランド物語』は、アメリカ文学史において家庭小説と呼ばれるジャンルの最初期の作品と言われているが、本作品では家庭は「嵐が吹き荒れる場」として表現されており、血縁によってのみ結ばれている家族のメンバーに共感が欠如していることが示される。公私の領域論をたくみに避けるようにして、本作では家族や家庭のあり方をむしろ外に広げ、血縁とは異なる「家族」が描かれていることを考察した。 ロビンソンの小説『ハウスキーピング』は、「家事」と「家を維持すること」のふたつの意味がタイトルに込められており、「家」を維持することと、家庭を持つ(家族で暮らす)ことが区別されている。ここから、20世紀後半におけるアメリカの「家族」と共感の問題を考察した。						
2. 研究成果実績の概要(英訳)						
This year, I focused on researching the relationship between domesticity and sympathy in American women's literature. Specifically, my research tackled with studies on Catherine Maria Sedgwick's New England Tale (1822), published in the 19th century, and Marilynne Robinson's Housekeeping (1980), a 20th-century work, on both of which I delivered presentations at literary conferences. When the discourse on public and private spheres in America was articulated by Alexis de Tocqueville's writings in the early 19th century, Tocqueville described the realm of women, or the "private," as the "the quiet circle of domestic employments," a "narrow circle." While this dichotomy between the dynamic public sphere and the static private sphere has persisted, can we truly consider the domestic realm as a quiet space isolated from society? In the research conducted this year, I aimed to reveal how "domestic novels" depicting family life have portrayed the challenges of maintaining a household, engaging in discussions about the role of sympathy within the family.						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)				発表 学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)
大串尚代	「家」を維持すること—Marilynne Robinson, Housekeepingにおける一時滞在者				日本 英文学会 第95回大会	2023 年5月11日

大串 尚代	嵐が吹き荒れる家—C.M. セジウィック『ニューイングランド物語』にみる共感とドメスティシティ	日本 ソロー 学 会2023 年度 大会	2023 年10 月20 日
----------	---	-------------------------------------	-------------------------